二月の土いじり

大岩金

觀賞方面は一月にほゞ同じく露地物は極めて少なく一月から三月までは溫室、フレームの時期であります。しかし來る春の爲に外でもしておかなければならない仕事はあります。

一、垣やその他の庭木、果樹類に寒肥を施すこと

二、害蟲の卵をとつておくこと

是等につきましては冬の初の土いじりと題して申し上げましたから只之丈に止めておきませう。

この外に主な仕事としましては種々の繁殖を行ふ時期であるのであります。

一、插木

常綠樹類の插木は多くは梅雨期に行ふのでありますが落葉樹類の插木は秋末及びこの早春芽の動く前に行ふのが常であります。その主なものは、バラ、ボケ、ヤナギ、スズカケ、イテフ、レンギヤウ、エニシダ、アヂサイ、葡萄、無花果などであります。

その方法は前年生の枝のよく充實した部分を數節づゝに切り下方の切口は節の下から利刀で斜に削りフレームの設備のある所はこの中に露地であります時はなるべく日當りのよい所に插床を苗床と同じやうに作りこゝに枝の過半を埋めよく蹈み付けておきます。更に敷藁又は敷草の如きで霜柱のたつのを防いでやります。このやうに致しますれば四月頃には發根發芽致しますけれども秋まではこのまゝにして秋になつてから適當な所に植ゑ替へてやるのであります。

二、接木

接木のうち枝接を二月には行ふのでありますがその方法は曾て申しましたので省略する事に致します。行ふ種類は梅、櫻、バラ、桃その他落葉果樹でありますが果樹にありましては多くは本月下旬から三月にかけて行つて居るやうであります。

その外誘接として普通の接木で容易に活著し難いもの卽ち楓や椿の類はこの方法で接木する事もこの切行ふのであります。

三、肥料の調製

イ、乾燥肥料

今のうちに肥料をこしらへておきます事は大切な仕事の一つであります。そのうち乾燥肥料は次のやうな長所をもつて居りますので是非こしらへておきたいと思ひます。

1、各種の肥料要素を含んでゐること

2、貯藏に便なること

3、惡臭のないこと

4、濃厚であること

5、外觀もさほど惡くないこと

以上のやうでありますから殊に鉢物などの限りある土の中で栽培しますものには極少量を用ひましてもよく肥效を奏しますので至つて便利であります。又濕氣の多い時に肥料をやらなければなりませんやうな時にも乾燥肥料を用ひる事は都合のよい事であります。

配合量は色々ありますがその一、二を示せば次のやうであるます。

1
- 油粕 四
- 魚肥 三
- 過燐酸石灰 二
- 灰 一
- 土 一〇

2
- 油粕 八
- 米糠 三
- 灰 二
- 土 一〇

以上をよく混ぜ合せまして是をカメの如き中に入れ上から水又は米のとぎ汁などを肥料が丁度浸る程度にそゝぎ上に雨水の入らないやうに蓋をしておきます。この節ですと二、三週間程たちますれば上面に黴が出て居りますから更に今一度攪拌して水分がなくなつて居りますれば更に入れて前同樣蓋をしておきます。次に二週間も經まして

蓋をこり黴が出て居りますれば又攪拌してそのまゝにしておき後黴が出なくなりましたならば既に肥料は充分腐熟したのでありますからこり出して一日位日當に乾しそれからカメなり桶なりに入れておき適宜使用すればよいのであります。

ロ、液肥

乾燥肥料の外に出來得れば液肥も用意しておきたいこ思ひます。

液肥には油粕、鰊粕、〆粕いづれもよろしく是に約五倍の水を入れて蓋をしておくのであります。只今用意しましたのは三月末か四月頃から使用出來ます。未熟のものは害がありますが腐熟しすぎるこいふ事はないのであります。又この腐熟に要する日數は季節によつて異なり夏季には三、四週間で充分使用する事が出來ます。しかして使用に當りましては草花の種類により、發育の度によつて更に上澄液を十倍乃至三十倍に薄めてやるのであります。施肥の注意は濃すぎたものより薄いものを度數を多くする方が效力が大なものであります。

（四八頁よりつゞく）

はれてゐる方法であるが三寸位のものに一芽植えてもよし又形の變つた澁味のある平鉢に配置よく澤山寄植にしても又面白いものである。

土は輕いものを好むので大體腐葉土七、荒木田二、砂一位の割合に混じたものが用ひられ、肥料は他の草花に比べるこ極めて少量でよいのであまり施し過ぎるこ直ぐ肥料負けしていぢけてしまつたり又窒素質のものが過ぎるこ葉ばかり伸びて仕方のないものなので植付の時根から少し離して腐熟した油粕、又は米糠等を極く少量入れてやるだけで後は花の終つた時薄い液肥を一二回施せば十分である。

性質こして寒氣に強く暑氣に弱く乾燥を忌むものであるから冬は其儘露地に置いてよく夏は鉢の儘土中に埋め込んで半日蔭にしてやる事が大切である。